

第二回

# 谷口裕和舞の会

# ENISHI 2019

令和元年 六月三十日(日)

渋谷セルリアンタワー能楽堂

【昼の部】

一、地唄 雪

二、東明流 野狐禅

三、地唄 葵の上

【夜の部】

一、地唄 鐘ケ岬

二、東明流 野狐禅

三、地唄 葵の上

山中隆成 扇面



演奏出演者

地唄 川瀬露秋 社中

東明流 東明伶舟 連中

東明吟 美

鳴物 堅田新十郎

笛 福原寛

今回十年振りにENISHIシリーズ第二回目をご覧ください。ENISHIシリーズは、谷口裕和の会とは趣を変え、古曲や地唄、クラシックなどを含め、お座敷のように間口の広すぎない空間でも踊れる曲をご覧ください。又、別席には谷口裕和も教えを受けております飛騨高山に脈々と伝わる茶道宗和流のお茶席を設け、文化・伝統の縁を繋げる会でございます。



第一回谷口裕和舞の会 Enishi2009 写真: 木越由美子

## ●演目

### 雪 (ゆき)

十八世紀後半に大阪で活躍した盲人音楽家、峰崎勾当が作曲した地唄で、男に捨てられ出家した芸妓が、雪の降る夜の一人寝に浮世を思い出し涙する、という内容の艶物(つやもの)です。大阪新地に実在した芸妓ソセキがモデルになっているといわれています。昭和期に活躍した日本舞踊家、故武原はんの生涯の代表作としても有名です。叙情的な色気あふれる舞は、地唄になじみのうすい東京でも『雪』の名を大いに高めました。

### 野狐禅 (やこぜん)

東明流は、明治初期にアメリカで学び帰国後に車両製造で財をなした平岡熙(1856~1934)が、西洋の音楽と日本の三味線の長所を取り入れて作りました。野狐禅とは、禅を学び、その奥義を極めないうちに自分は悟ったと自負するもの、要するに、うぬぼれもののことを指します。内容は、狐が迦葉尊者に化け、迦葉尊者が悟ったことを述べて、後は禅問答で知られたエピソードを並べ、人間をからかうというユニークで洒落た作品です。

### 鐘ヶ岬 (かねがみさき) 山中隆成 扇面

歌舞伎舞踊の名作『京鹿子娘道成寺』の前半の歌詞「鐘に恨みは…思い染めたが縁じゃえ」までをそのまま用い、節付した舞踊の人気曲です。同曲を初世中村富十郎が『九州釣鐘岬(かねがみさき)』として大阪で演じた際の踊り地が地唄に残ったといわれています。娘道成寺の清姫の鐘への執着、恋する娘心が、箏を交えた地唄の品のある華やかな旋律にのせて描かれています。

### 葵の上 (あおいのうえ)

能をもとに作られたこの作品は『源氏物語 葵の帖』から取材したものです。元皇太子妃で今は未亡人となった六条御息所が、愛人の光源氏の正室・葵の上に激しい嫉妬心を抱き苦しみ、ついには生霊となって葵の上の魂を抜き取ろうとする物語です。過ぎし日の皇太子妃としての華やかさを偲び、述懐の心持から今の身の悲しさを舞い、光源氏と御息所の恋をつがいの離れぬ蝶にたとえ、二枚扇を使い艶麗さを見せます。最後は、御息所の葵の上に対する激しい嫉妬の姿を表現します。品位を失わずに、高貴な女性の抑え難い嫉妬心を描くところが見所です。

## ●概要

令和元年 六月三十日(日)

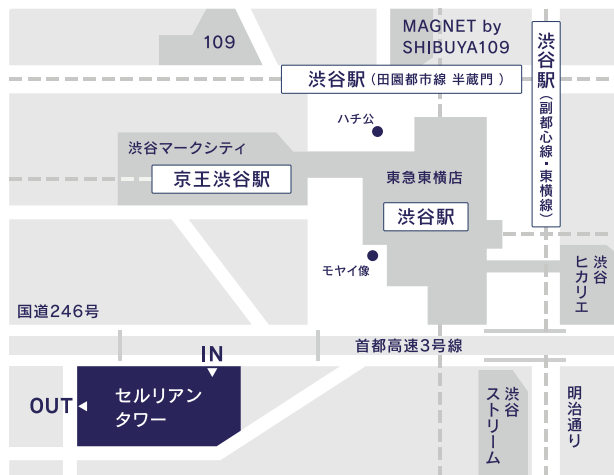
渋谷セルリアンタワー能楽堂

【昼の部】13:00開場(13:30開演)

【夜の部】16:30開場(17:00開演)

御観劇料: 8,000円(お茶券付/全席自由席)

尚、開場後・各幕間には、宗和流十五世家元森本花文師を偲び能楽堂隣の金田中に於いて追霊の掛笠(お茶席)を致します。



## ●Webチケット予約

e+(イープラス)  
<https://eplus.jp/>

前売り開始: 5月7日(火)

## ●制作・お問い合わせ

谷口裕和事務所  
03-3774-0059

